

Ⅶ IPMの実践指標（改訂版）

1 水稻

【環境保全型農業直接支払交付金用】

滋賀県 水稻 I P M (総合的病虫害・雑草管理) 実践指標チェックシート

組織名		ほ場番号	
氏名			

○必須項目と選択項目を合わせて11項目以上実践すること。

	管理項目	管 理 ポ イ ン ト	実施した項目に○をつける
必須項目	化学農薬使用量低減に寄与する取組	畦畔は除草剤を使用せず、機械などにより概ね4回以上の除草作業を行い実施日を記入 1回目 月 日, 2回目 月 日, 3回目 月 日, 4回目 月 日 (生産記録等で実施日を記載している場合は実施日記入の省略可)	
	選択項目		
選択項目	水田及び周辺管理	畦塗り、畦畔シートの利用、畦畔の補修等による漏水防止対策を行う	
	育苗・移植全般 雑草対策	種子を更新する。	
		温湯消毒法、微生物農薬または両法併用で種子消毒を行う。	
		健苗育成に努め、病害が発生した苗は早期に処分する。	
		代かき・田植え時に落水しない。	
		ほ場の均平化を図り、田面を露出させないようにし、除草剤は適期に施用する。	
		雑草の多い水田を除き、「初期・初中期一発剤」のみの除草体系とする。	
	病虫害対策	病虫害防除所が発表する発生予察情報を確認し、防除の参考とする。	
		補植用余剰苗は早期に除去、処分する。	
		水稻の出穂2～3週間前と、水稻の出穂期に畦畔の草刈りを実施し、カメムシ類の密度低下を図る。	
		水田内のヒエ等のイネ科雑草はカメムシ類の棲息場所となるので、早期に除去する。	
	農薬の使用全般	防除の実施日、実施場所、農薬の名称、使用量、希釈倍数、散布面積、散布方法等を記録する。	
		栽培地域の病虫害の発生しやすさを考慮し、病虫害防除を実施する。	
		当該病虫害・雑草に効果のある複数の農薬がある場合には、低毒性（人畜毒性・魚毒性）の薬剤を選択する。	
		湛水状態で農薬を使用する場合は、畦畔等からの漏水防止と、散布後1週間程度の止水期間を遵守する。	
その他	環境こだわり農産物を生産する。		
※管理ポイントの年度は、前年水稻収穫後の畦畔除草・耕耘等から始まります。		○の数の合計 (11項目以上実践すること)	

I P M (Integrated Pest Managementの略) とは、「総合的病虫害・雑草管理」と訳されています。

総合的病虫害・雑草管理とは、利用可能な防除技術を経済性も含めて検討し、病虫害や雑草の発生を抑制するための手段を総合的に講じるもので、人の健康に対するリスクと環境への負荷を軽減、あるいは最小の水準にとどめる技術のことです。

2 大豆・小豆

【環境保全型農業直接支払交付金用】

滋賀県 大豆・小豆 I P M (総合的病害虫・雑草管理) 実践指標チェックシート

組織名		ほ場番号	
氏名			

- 必須項目と選択項目を合わせて **8 項目以上** 実践すること。
 ○必須項目管理ポイント内の□に一つ以上チェックを入れる

	管理項目	管 理 ポ イ ン ト	実施した項目に○をつける
必須項目	化学農薬使用量低減に寄与する取組	<u>下記から 1 つ以上選択し、選択した手法の□にレを記入する</u> ☐ 交信攪乱剤の利用 ☐ 天敵温存植物（バンカープランツ、インセクタリープランツ）の設置 ☐ 天敵等生物農薬の利用	
選択項目	排水対策等	ほ場に排水溝を設置し、排水を良くする。	
	種子の準備	種子更新を行う。	
		栽培方法に合わせ、は種時期とは種量を適正にする。	
	耕種的防除対策	ウイルス病や茎疫病等対策のため、発病株の抜取りを徹底する。	
	病害虫の発生に応じた防除	病害虫防除所が発表する病害虫発生予察情報等を入手し、病害虫の発生状況、発生予測に関する情報を確認する。	
		ほ場内を見回り、病害虫の発生や被害を把握するとともに、気象予報を考慮して防除の要否を判断し、適期防除に努める。	
	収穫・乾燥	紫斑病(大豆)および腐敗粒の対策として、成熟後速やかに収穫・乾燥を行う。	
農薬の使用全般	薬剤散布の際は、飛散しにくい剤型や散布ノズルを使用するなど適切な飛散防止措置を講じる。		
	薬剤の選択に際しては、同一系統薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。		
	防除の実施日、実施場所、農薬の名称、使用量、希釈倍率、散布面積、散布方法を記録する。		
その他	環境こだわり農産物を生産する。		
○の数の合計 (8 項目以上実践すること)			

I P M (Integrated Pest Managementの略) とは、「総合的病害虫・雑草管理」と訳されています。

総合的病害虫・雑草管理とは、利用可能な防除技術を経済性も含めて検討し、病害虫や雑草の発生を抑制するための手段を総合的に講じるもので、人の健康に対するリスクと環境への負荷を軽減、あるいは最小の水準にとどめる技術のことです。

3 露地野菜

【環境保全型農業直接支払交付金用】

滋賀県 露地野菜 I P M (総合的病害虫・雑草管理) 実践指標チェックシート

組織名		ほ場番号	
氏名			

- 必須項目と選択項目を合わせて **9 項目以上** 実践すること。
 ○必須項目管理ポイント内の□に一つ以上チェックを入れる

管理項目	管 理 ポ イ ン ト	実施した項目に○をつける	
必須項目	化学農薬使用量低減に寄与する取組 下記から1つ以上選択し、選択した手法の□にレを記入する ☐ 交信攪乱剤の利用 ☐ 天敵温存植物（バンカープランツ、インセクタリープランツ）の設置 ☐ 天敵等生物農薬の利用		
選択項目	品種、ほ場の選択と改善 連作は避け、作付けのローテーションを行う。 病気に対して抵抗性が高い品種を選択する。 土壌診断を受け、適切な施肥管理、資材施用を行う。		
	健全苗の育成 種子や育苗培土等は消毒されているものを使用する。 育苗では物理的・耕種的防除法を活用し、病害虫の発生を抑制する。		
	雑草の管理 播種・定植後に灌水するなど、スムーズに発芽や苗を活着させ、外葉が早く地表面を覆うようにする。 中耕や培土を適切に行う。		
	ほ場衛生 作付けほ場には、病気が発生しているほ場の土を持ち込まないように注意する。		
	病害虫対策 病害虫の被害株は早めに処分する。 病害虫防除所が発表する発生予察情報やほ場観察により、病害虫の発生や被害を把握するとともに、気象予報などを考慮して防除の要否を判断する。		
	農薬の使用全般 農薬使用に当たっては、効果の高い剤を選択し、飛散が少なくなるように天候やほ場条件などを勘案しながら、散布方法を決定する。 薬剤の選択に際しては、同一系統薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。 防除の実施日、実施場所、農薬の名称、使用量、希釈倍率、散布面積、散布方法を記録する。		
	その他 環境こだわり農産物を生産する。		
	○の数の合計 (9 項目以上実践すること)		

I P M (Integrated Pest Managementの略)とは、「総合的病害虫・雑草管理」と訳されています。

総合的病害虫・雑草管理とは、利用可能な防除技術を経済性も含めて検討し、病害虫や雑草の発生を抑制するための手段を総合的に講じるもので、人の健康に対するリスクと環境への負荷を軽減、あるいは最小の水準にとどめる技術のことです。

4 施設野菜

【環境保全型農業直接支払交付金用】

滋賀県 施設野菜 I P M (総合的病害虫・雑草管理) 実践指標チェックシート

組織名		ほ場番号	
氏名			

- 必須項目と選択項目を合わせて11項目以上実践すること。
○必須項目管理ポイント内の□に一つ以上チェックを入れる

	管理項目	管 理 ポ イ ン ト	実施した項目に○をつける	
必須項目	化学農薬使用量低減に寄与する取組	<u>下記から1つ以上選択し、選択した手法の□にレを記入する</u> ☐ 交信攪乱剤の利用 ☐ 天敵温存植物（バンカープランツ、インセクタリープランツ）の設置 ☐ 天敵等生物農薬の利用		
選択項目	病害虫の耕種的防除および適正な施肥管理	前作終了後、残さや病害株の持ち出しを行い、次作の病害虫や雑草の発生を抑制する。		
		前作終了後、太陽熱消毒やハウス内の蒸し込み等適正な処理を行い、次作の病害虫や雑草の発生を抑制する。		
		土壌診断を受け、適切な施肥管理、資材施用を行う。		
選択項目	播種・育苗管理	抵抗性品種や抵抗性台木の接ぎ木を利用する。		
		種子や育苗培土等は消毒されているものを使用する。		
		健苗育成に努め、病害虫が発生した苗は早期に処分する。		
選択項目	病害虫対策	病害虫防除所が発表する発生予察情報やほ場観察により、病害虫の発生や被害を考慮して防除の要否を判断する。		
		換気扇や循環扇等を使って適正に温湿度を管理し、病害を防ぐ。		
		防虫ネットや紫外線カットフィルムを張り害虫の侵入を防ぐ。		
		電撃殺虫機、黄色灯などの物理的防除を利用する。		
		ほ場内の整理や除草に努め、病害虫を温存しないようにする。		
		病害虫の被害株はほ場外に持ち出し早めに処分する。		
選択項目	雑草対策（施設内）	手取り除草を行う。		
選択項目	農薬の使用全般	防除の実施日、実施場所、農薬の名称、使用量、希釈倍率、散布面積、散布方法を記録する。		
		薬剤の選択に際しては、同一系統薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。		
選択項目	その他	環境こだわり農産物を生産する。		
			○の数の合計 (11項目以上実践すること)	

I P M (Integrated Pest Managementの略)とは、「総合的病害虫・雑草管理」と訳されています。

総合的病害虫・雑草管理とは、利用可能な防除技術を経済性も含めて検討し、病害虫や雑草の発生を抑制するための手段を総合的に講じるもので、人の健康に対するリスクと環境への負荷を軽減、あるいは最小の水準にとどめる技術のことです。

5 果樹

【環境保全型農業直接支払交付金用】

滋賀県 果樹 I P M (総合的病害虫・雑草管理) 実践指標チェックシート

組織名		ほ場番号	
氏名			

- 必須項目と選択項目を合わせて **9 項目以上** 実践すること。
○必須項目管理ポイント内の□に一つ以上チェックを入れる

	管理項目	管 理 ポ イ ン ト	実施した項目に○をつける
必須項目	化学農薬使用量低減に寄与する取組	下記から 1 つ以上選択し、選択した手法の□にレを記入する ☐ 交信攪乱剤の利用 ☐ 天敵温存植物（バンカープランツ、インセクタリープランツ）の設置 ☐ 天敵等生物農薬の利用	
	選択項目	ほ場及び周辺管理等 薬がかかりやすい樹型づくりや間伐をし、適切な通風・採光を確保する。 土壌診断を受け、適切な施肥管理、資材施用を行う。	
選択項目	無病苗・無病穂木の導入等	改植、新植の時は、無病苗・無病穂木等の導入や抵抗性品種や抵抗性台木を利用する。	
	病害虫・雑草対策	病害虫防除所が発表する発生予察情報等を確認し、適期防除等に活用する。	
		トラップ、園内巡回等で病害虫の発生を把握し、防除の要否を判断する。	
		病害対策により病害の発生を抑制する。 （防風林、防風垣、防風網、雨よけ施設の設置や敷きわら、敷き草、笠かけ、袋かけ等）	
		害虫対策により害虫の発生を抑制する。 （防虫ネット、紫外線カットフィルム、光反射シート、黄色蛍光灯、電撃殺虫機、粘着版、バンド誘殺、糖蜜誘殺、粗皮削り等）	
		ほ場内の雑草は草生栽培や機械除草などで管理をする。	
農薬の使用全般	防除の実施日、実施場所、農薬の名称、使用量、希釈倍率、散布面積、散布方法を記録する。		
	対象とする病害虫・雑草に効果のある複数の農薬がある場合には、低毒性（人畜毒性・魚毒性）の薬剤を選択する。		
	ほ場周辺に農薬が飛散しないよう、周辺へ飛散しにくい剤型（塗布剤等）の選択や風向や散布方法、散布圧力に注意する。		
	薬剤の選択に際しては、同一系統薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。		
その他	環境こだわり農産物を生産する。		
○の数の合計 (9 項目以上実践すること)			

I P M (Integrated Pest Management の略) とは、「総合的病害虫・雑草管理」と訳されています。

総合的病害虫・雑草管理とは、利用可能な防除技術を経済性も含めて検討し、病害虫や雑草の発生を抑制するための手段を総合的に講じるもので、人の健康に対するリスクと環境への負荷を軽減、あるいは最小の水準にとどめる技術のことです。

6 茶

【環境保全型農業直接支払交付金用】

滋賀県 茶 I P M (総合的病害虫・雑草管理) 実践指標チェックシート

組織名		ほ場番号	
氏名			

- 必須項目と選択項目を合わせて **9 項目以上** 実践すること。
 ○必須項目管理ポイント内の□に一つ以上チェックを入れる

	管理項目	管 理 ポ イ ン ト	実施した項目に○をつける
必須項目	化学農薬使用量低減に寄与する取組	<u>下記から1つ以上選択し、選択した手法の□にレを記入する</u> ☐ 交信攪乱剤の利用 ☐ 天敵温存植物（バンカープランツ、インセクタリープランツ）の設置 ☐ 天敵等生物農薬の利用	
	選択項目	株内の風通しを良くするためのうね間のすそ刈りや、ほ場周辺の雑草や樹木の除去など、害虫の増殖・飛来源の除去を実施する。 病害の発生を予防するため、窒素の多用を避ける。 特定の病害虫の常発地帯では、抵抗性を有する品種を導入する。	
選択項目	病害虫・雑草対策	発生予察情報の確認や定期的な園内巡回を行い、適切な防除を実施する。	
		園内に発生している雑草の草種と発生量を定期的に確認し、適切な除草を実施する。	
		各種資材や敷き草等でマルチングするなど雑草抑制対策を講じる。	
		クワシロカイガラムシ等の多発茶園は、一番茶摘採後に中切り更新し寄生部を除去し樹勢回復を図る。	
	農薬の使用全般	薬剤の選択に際しては、同一系統薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。 最少の使用量で十分な薬効が得られるよう、最適な散布方法・使用量を決定するとともに、散布ムラがないよう適正な農薬散布を行う。 農薬散布は無風～弱風時に行うなど、農薬のドリフト（飛散）防止対策を徹底し、他の作物などに飛散しないようにする。 県や農業協同組合が開催する栽培研修会等に参加し、情報収集に努める。 防除の実施日、実施場所、農薬の名称、使用量、希釈倍率、散布面積、散布方法を記録する。	
その他	環境こだわり農産物を生産する。		
○の数の合計 (9 項目以上実践すること)			

I P M (Integrated Pest Managementの略) とは、「総合的病害虫・雑草管理」と訳されています。

総合的病害虫・雑草管理とは、利用可能な防除技術を経済性も含めて検討し、病害虫や雑草の発生を抑制するための手段を総合的に講じるもので、人の健康に対するリスクと環境への負荷を軽減、あるいは最小の水準にとどめる技術のことです。

(様式第14号)

※本様式は、令和6年度の様式です。
今後変更がある場合がありますので、提出の際は御確認の
うえ提出願います。

〇〇市町村長 殿

年 月 日
組織名又は法人名

環境負荷低減のチェックシート

氏名（法人の場合は代表者名）

環境保全型農業直接支払交付金実施要領（平成23年4月1日付け22生産第10954号生産局長通知）第8の4の（1）のウに基づき以下のとおり、環境負荷低減のチェックシートについて、報告します。

実施状況	（1）適正な施肥	翌年度 取組計画
1 ☐	肥料の適正な保管	☐
2 ☐	肥料の使用状況等の記録・保存	☐
3 ☐	作物特性やデータに基づく施肥設計 （簡易土壌診断、前作の収量等）	☐
4 ☐	有機物の適正な施用による土づくりを検討 （堆肥や有機質肥料、緑肥等の活用等）	☐

実施状況	（4）悪臭及び害虫の発生防止	翌年度 取組計画
12 ☐	悪臭・害虫の発生防止・低減に努める	☐

実施状況	（5）廃棄物の発生抑制、適正な循環的な利用及び適正な処分	翌年度 取組計画
13 ☐	廃棄物の削減や適正な処理（プラスチック等の資材の使用量又は排出量削減や廃棄物の処分の適正化）	☐

実施状況	（2）適正な防除	翌年度 取組計画
5 ☐	病害虫・雑草が発生しにくい生産条件の整備 （健全種苗の使用、病害虫の発生源除去等）	☐
6 ☐	病害虫・雑草の発生状況を把握した上での防除要否及びタイミングの判断 （発生予防情報の活用による防除等）	☐
7 ☐	多様な防除方法（防除資材、使用方法）を活用した防除 （物理防除・生物防除の活用等）	☐
8 ☐	農薬の適正な使用・保管	☐
9 ☐	農薬の使用状況等の記録・保存	☐

実施状況	（6）生物多様性への悪影響の防止	翌年度 取組計画
14 ☐	病害虫・雑草の発生状況を把握した上での防除要否及びタイミングの判断 （発生予防情報の活用による防除等）（再掲）	☐
15 ☐	多様な防除方法（防除資材、使用方法）を活用した防除 （物理防除・生物防除の活用等）（再掲）	☐

実施状況	（7）環境関係法令の遵守等	翌年度 取組計画
16 ☐	みどりの食料システム戦略の理解	☐
17 ☐	関係法令の遵守	☐
18 ☐	農業機械・装置・車両の適切な整備と管理の実施 （定期メンテナンス、点検記録作成等）	☐
19 ☐	正しい知識に基づく農作業安全に配慮した適正な作業環境への改善 （作業方法の改善や危険箇所の表示、保護員の着用、機械・器具の操作方法確認等）	☐
翌年度、当該事業を取り組まない		☐

（注1）農業生産活動の実態にふじて実際に取り組んだ内容について、☐欄に✓を記入して下さい。該当しない場合は、☐欄には／（斜線）を記入して下さい。

（注2）翌年度に取り組む予定の項目について、☐欄に✓を記入して下さい。該当しない場合は、☐欄には／（斜線）を記入して下さい。

（注3）翌年度に当該事業に取り組まない場合は、翌年度取組計画欄に／（斜線）を記入し、「翌年度、当該事業を取り組まない」の☐欄に✓を記入して下さい。